



小特集

女性たちが拓くIT

—IT ダイバーシティフォーラムより—

*Women in IT Innovation : Messages From
IT Diversity Forum*



編集にあたって

■ 安信 千津子

(株) 日立コンサルティング

■ 山本 里枝子

(株) 富士通研究所



この企画は、2007年1月に開催されたソフトウェアジャパン2007で、講演を終えた國井秀子氏と話しているときに生まれた^{1), 2)}。前年2006年5月から情報処理学会の理事として活動するなかで、いろいろな場で存在感のある女性たちに会ってきた。共通して、元気がよくて、生き生きとしている。その秘密を、若い女性、IT技術者・研究者に伝えたいと思った。

毎月の理事会では、副会長の土井美和子氏、事業担当の村山優子氏、国際担当の安信と3人の女性が出席する。事務局の中田志麻子氏をいれると4人である。2006年9月の「ITダイバーシティフォーラム：IT分野で活躍する女性技術者・研究者と語ろう」のパネルディスカッションでは中谷多哉子氏、来住伸子氏²⁾、2006年11月「情報社会のデザイン」シンポジウムでは実行委員の大場みち子氏、2007年1月に広島でIEEE-CSと共催のSAINT2007では、Local Arrangements Chairの前田香織氏らと出会った。

実際に出会った女性に限って執筆を依頼したので少人数であるが、専門分野はセキュリティ、ヒューマンインタフェース、ソフトウェアエンジニアリング、ネットワーク等であり、職歴も、大学、研究所、大企業、ベンチャー等で、バラエティに富む結果となった。多くの読者が何か共感を得る可能性のある小特集になったと思う。技術論文ではなく、働き方、考え方についてのエッセイの執筆を快諾していただいた執筆者の方々には、心から感謝する。

一方、情報処理学会の会員状況からみても、1999年度と2006年度を比較して、学会全体の会員数自体が減少している中、低いレベルであるが、女性会員の比率は図-1に示すよう4.7%から5.7%に増加している。

一般会員、学生会員と分けてみると、1999年度でそれぞれ4.7%、5.4%であるのが、2006年度でそれぞれ5.1%、10.5%に増加している。この期間学生会員が大幅に増加している中、女性の学生会員が男性以上の増加率を示している。今後は、理工系的女子学生の比率を上

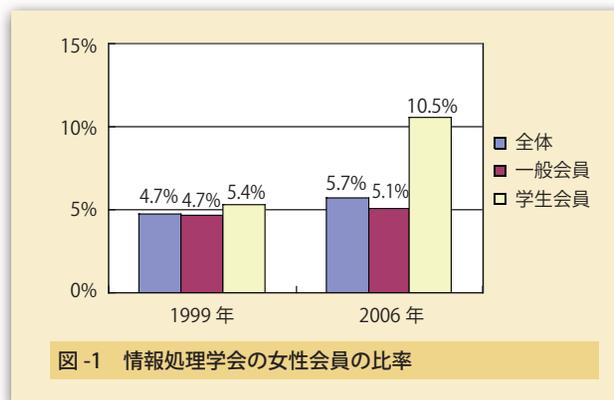


図-1 情報処理学会の女性会員の比率

げていくことが課題といえる。

女性の一般会員の比率も学生会員ほどではないが増加している。今後、女子学生会員が一般会員になり働き続けることで、確実に増加していくことを期待したい。

本小特集は、女性が執筆することを意図したが、多くの内容は、女性に限らず、新しいIT分野に前向きに、楽しみながら取り組んできた人たちの考え方や働き方といえる。女性はもちろん、自分にあつた道を探す男性会員、これから道を選択する学生会員にも、「意志のあるところに道は開ける」ことを感じてもらえることを願っている。

なお、ITダイバーシティフォーラムはITフォーラムの1つであり、ソフトウェアジャパンとともに、本会の技術応用運営委員会の活動である。ダイバーシティ(多様性)の観点から、IT技術者、研究者の活躍、学会の発展に寄与することを目的として、パネル討論や企業のダイバーシティマネジメントの紹介などを行っている³⁾。引き続き暖かい関心と協力をお願いしたい。最後に、応援してくれた学会事務局の女性たちにお礼を述べる。

参考文献

- 1) ソフトウェアジャパンのWebページ、<http://www.ipsj.or.jp/10jigyoforum/forumindex.html>
- 2) 安信千津子、青山幹雄：ITダイバーシティフォーラム、情報処理、pp.493-495 (May 2007).
- 3) 菅原香代子：女性社員の活躍に向けたIT企業の試み、情報処理、pp.1018-1025 (Sep. 2007).

(平成19年11月13日)

